



なぞって練習

しみじみと話して、
袖で涙を拭いている美
しい源氏を見ては、
この方の乳母でありえ
たわが母もよい前生
の縁を持った人に違
ないという気がして、
さつきから批難がまし
くしていた兄弟たちも、
しんみりとした同情を
母へ持つようになった。
源氏が引き受けて、
もつと祈禱を頼むこと
などを命じてから、
帰ろうとする時に惟光
に蠟燭を点させて、
さつき夕顔の花の載せ
られて来たた扇を見た。

■参考

※袖【そで】

※惟光【これみつ】

※前生【ぜんじょう】

※蠟燭【ろうそく】

※祈禱【きとう】

※点させ【とせ】

(青空文庫のフリガナより)